

読み聞かせは読書好きな子どもを育てる第一歩

子どもは、文字さえ読めるようになれば、本も自分から自然に読むようになるはず。そう思っている方も多いのではないでしょうか。しかし残念ながら、いくらたくさんの漢字を覚え、語彙が豊富になったとしても、それだけでは読書好きの子は育ちません。

進んで本を読もうという意欲は、二つの条件がそろって、はじめて生まれてくるものです。一つは言うまでもなく読字力、これは漢学力と言い換えてもいいでしょう。そして、もう一つ欠かせないのが、本を読む楽しさを実感させてあげる、ということです。

私たち大人にしても、たとえ手近に本があっても「面白そう」どんなことが書いてあるんだろう」という興味が湧かなければ、なかなか手にとって読んでみようとは思いません。それと同じことなのです。

では、まだ自分で本を読むという経験のない幼児期の子どもに、どうやってその楽しさを教えてあげるかというと、そのいちばんの近道が絵本の読み聞かせです。

まずはお子さんが特に興味をもちそうな絵本を選んで、その情景が思い浮かぶように、表現豊かに読み聞かせをしてあげるとよいでしょう。幼児期の子どもは、興味・関心のあるものでしたら、いくらくらい返しても飽きることがありません。お気に入りの話は、最初から最後まですっかり覚えてしまっても、まだ聞いたがるものです。そんなときお母さんは、面倒がらずに何度もくり返し読んであげてください。

「お母さん、ご本読んで」　この一言が、お子さんが本好きの子に育つための大切な第一歩なのです。